【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

| ①チーム名 (呼称) | 大垣市家庭教育支援チーム (呼称:大垣市家庭教育支援スタッフ) |
|---------------|---|
| ②活動拠点 | 大垣市庁舎 大垣市スイトピアセンター(幼児活動室) |
| ③活動範囲 | 大垣市内全域 |
| ④組織体制 | <u>23_</u> 人 家庭教育支援スタッフ、家庭教育支援員 |
| ⑤活動開始年度 | 平成30年度 |
| ⑥問合せ先 | (部署・氏名等) |
| | 大垣市教育委員会 社会教育スポーツ課 (TEL) 0584-47-8039 (E−mail)seas@city.ogaki.lg.jp |

(2)活動内容について

| ① 活動形態 (複数チェック可能) | □保護者等への学びの場の提供 |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| | 図保護者等への地域の居場所づくり |
| | ☑アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) |
| | ■ (□自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) |
| | □保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) |
| | ☑その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) |
| | □その他() |
| ②活動対象 (複数チェック可能) | ☑乳幼児 ☑小学生(低学年) ☑小学生(中学年) ☑小学生(高学年) |
| | ☑中学生 □高校生以上 |
| | の子供を持つ保護者に対する活動を実施 |
| ③活動内容 | 【具体的な活動内容】 |
| | ・就学児家庭支援サロンの開催(月1回) |
| | 「顔見知りには話しにくい。」「学校に相談するにはハードルが高い。」とい |
| | う声に対して、日常的なちょっとした子育ての悩みやモヤモヤを、気軽におし |
| | ゃべりする場を提供する活動。参加者に応じて、スタッフが分かれて雑談を |

| | しながら、悩みにこたえていく。 | |
|--|---|--|
| | ・夏休み特別サロン開催(夏休み中 5・6 回) 小学生の夏休みの宿題等を支援する活動。親子で大学生・高校生の学習支援ボランティアが中心に行う。 タッフと雑談するなどゆったりと過ごす。終了後、学習支 習で頑張った姿や様子を伝える。 | 保護者は別室で、ス |
| | ・土曜日サロン開催(月1回) 平日就労している保護者のため、おしゃべりする場を せて、小中学生の学習支援も行っている。 | 提供する活動。あわ |
| | - 電話相談(電話 月〜金 9:00〜16:00) 家庭における子育ての悩みの軽減を図るため、家庭教 | 育相談室を開設。 |
| ④活動の成果(活動実績がある場合) | ・就学児家庭支援サロンは、月1回、平日の開催であるいが、少しずつ周知されて、リピーターが増えつつあり保護者もいる。 ・夏休み特別サロンでは、今年度より、大学生・高校生ィアを募集したところ、多数の参加者があり、学習支援た。その分、スタッフが保護者との対応にあたることがやスタッフとのおしゃべりで、子育てのイライラも発散でさらに、子どもたちもスタッフから頑張りを認められ、そのられ、また褒められることで学習意欲が高まった。小学る保護者からは、一緒に連れていけることで助かったと・土曜日サロンは、土曜日に保護者の仕事がお休みのは少ないが、中には母親が仕事だったり父親が仕事だる保護者も数名だがいる。小・中学生の学習相談も兼子どもを連れて参加される保護者もいる。 | 、ほぼ毎回参加するの学習支援ボランテきを任せることができた。保護者のたらと好評であった。の場で保護者に伝えなり、参加されるの方にあるく、参加されるのたりして、参加されるのからない。 |
| | ・電話相談では、学校に相談するのに躊躇する保護者の姿に悩む保護者が、名前を名乗らずに相談できるとるようだ。電話相談をきっかけに学校や関係諸機関等ケースが増えている。 | ころに良さを感じてい |
| ⑤活動財源 (複数チェック可能) | □文部科学省補助事業(事業名: □文部科学省委託事業(事業名: □厚生労働省事業(事業名: □地方公共団体単独事業として実施 |))) |
| | | |

| ☑特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) | |
|------------------------|---|
| □その他の支援により活動を実施 | |
| (|) |